

# はじめまして こどもまんなか小児看護技術

＊ 特集にあたって ＊

## 初心忘るべからず こどもの最善の利益をまもる看護を実践する

小児看護に携わる私たちは「こどもにとっての最善の利益を本当に保障できているのか?」ということを問い続け、こどもの権利をまもることをずっと大切にしていることと思います。しかし、子どもの権利条約が国会で批准された1994年から30年を経た今でも、こどもの権利が十分にまもられていない現実が続いています。本特集では、一人二人ではできない大切なこと、“こどもまんなか”の“小児看護技術”についての共有、再考、創造、発展につながる可能性をもつたいへん貴重な機会をいただきました。

本特集のタイトルに“はじめまして”と入れました。“はじめまして”には“初めまして”と“始めまして”の両方の意味を込めました。“こどもまんなか小児看護技術”とは、書籍『いい顔生まれる こどもまんなか小児看護技術』<sup>1)</sup>において、子どもの権利条約の理念に基づいて創成した用語です。このなかで「こどもまんなか小児看護技術とは、成長・発達しているこどもをいつも中心に据え、こどもの最善の利益を守るためのこどもの看護を実践すること」<sup>2)</sup>としました。こどもと家族をケアの対象とする私たち看護師の立ち位置は、子どもの権利条約の第5条に定められている、親がこどもに行う責任、権利、義務を尊重すること、すなわち「こどもの最善の利益を念頭におき、こどもの発達に応じてこどもを育てている保護者を尊重し、家族と一緒に発達課題への取り組み方を考え、こどもと家族の発達を支えていく」<sup>3)</sup>としています。本書のなかで詳しく紹介していますが、一貫して、こどもの最善の利益を看護の思考・行動の基盤にしています。

さて、「初心忘るべからず」は、室町時代の能の大成者、世阿弥の言葉です。世阿弥は、著書『花鏡』でこの言葉の意味を広げて「是非の初心忘るべからず」「時時の初心忘るべからず」「老後の初心忘るべからず」の三カ条を記しました。「初心」は、年齢として未熟な者だけでなく、各年齢にふさわしい芸を修得した者にもあり、幾度も積み重ねられ、修める芸には終わりが無いことを説いています。そしてそれは、向上心を失わず、子孫に伝えていくという世阿弥の成長と一体のものです<sup>4)</sup>。

筆者らは、この言葉が示すように、看護職のキャリアのどの段階にあっても初心を忘れずに研鑽して、こどもの声を聴き、こどもの最善の利益をまもるための実践知を積み上げ、次世代に伝えていくことを意識しながら、より質の高いケアの実現と発展へつなげていきたいと思いました。

2050年の日本の平均世帯人員は1.92人になると推定されています<sup>5)</sup>。こどもの総数が減少しても、豊かな人生をおくる基盤となるこどもの健康に寄与する専門性の高い看護へのニーズとそれに応え得る小児看護と「こどもまんなか小児看護技術」はあり続けると考えています。

本特集では、従来の小児看護技術の枠を超えて、こども中心の実践、教育、研究の専門家に執筆いただきました。読者の皆さんのそれぞれの春のはじまりに、こどもの最善の利益をまもる看護の創造と発展に役立つ一冊となることを願っています。

### 【文 献】

- 1) 染谷奈々子, 平田美佳・編: いい顔生まれる こどもまんなか小児看護技術. へるす出版, 東京, 2024.
- 2) 前掲1, p 32.
- 3) 前掲1, p 31.
- 4) 西野春雄: 世阿弥; 能の本を書く事, この道の命なり. ミネルヴァ書房, 京都, 2024.
- 5) 国立社会保障・人口問題研究所: 日本の世帯数の将来推計 (全国推計); 令和6 (2024)年推計. 2024. [https://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2024/hprj2024\\_PR.pdf](https://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2024/hprj2024_PR.pdf) (2025年2月21日最終アクセス)

横浜創英大学看護学部准教授／小児看護専門看護師  
染谷奈々子 Someya Nanako

順天堂大学大学院医療看護学研究所,  
同大学医療看護学部教授／小児看護専門看護師  
平田美佳 Hirata Mika